

田舎暮らし

～京都からの1ターン～

奥谷正博さんへの

インタビュー

- 職業：パート
- 家族構成：夫婦
- 移住歴：週末移住
- お気に入りスポット

香肌峡温泉 いいたかの湯



田舎暮らしがしたいと考える都会暮らしの人がテレビ番組や雑誌の影響で増えていると感じる今日この頃。田舎でしか出来ないことを始めたのが奥谷正博さんだ。

——移住後にしたい事は何ですか？

「以前はDIYなどしたことがなかったが大がかりなものもやりたかったので太陽光発電の資格も取った。今は緊急時に井戸を掘りたいと考えています。0円生活や風力発電や花など色々やってみたい」と多くのやりたい事がありアイデアが尽きないといった様子だ。

もともと都会出身で田舎がなかったので一度は田舎暮らしをしたかったという奥谷さん。「住居探しは何度も足を運び最終的に仲良くなった地域の人に土地を紹介してもらった。決め手は立地条件や家から見える景色が気に入った。結果的に移住するまで20年以上の時間をかけたが、そのおかげで草刈りなどで地域の人と面識があり移住前の不安もなかった。



『自然の中で食べるご飯は格別』

ただ、地域に図書館や草刈機などをシェア出来る互助組織やネットワークがないので、あれば更に移住しやすくなると思う。移住に関する雑誌等には良いことがたくさん書いてあるので注意が必要。直接訪問するのが大事」と話す。

——新天地の生活はどうですか？

「買い物には少し不便を感じるが、インターネットでも購入出来るので不便な地域でも欲しいものは手に入る。ただ波瀬駅にはもう少し活気が欲しい。あと、以前住んでいた京都とここでは冠婚葬祭のしきたりが違ったので最初は戸惑った。移住後は、洗濯に雨水を利用したり、蓮ダムに流木をもらいにかけて焚き木をしている。食事もガレージの中で食べるようになったが、外で食べるご飯は凄くおいしく感じる」とのこと。



——これからやりたいことは何ですか？

「ここは、周りの雑音も気にならないし、夜空も綺麗で景色が良い場所だ。飯高B&G海洋センターでランチ会などあれば参加しているが、今後も地域のお祭りや行事に参加して周りの人などと繋がっていきたい。」と、新たな仲間との出会いで田舎暮らしでやりたい事の幅も広がることだろう。

